

C-43 人体外形の非対称性(第4報) -小学生について-

鹿児島県立短大 ○茅野艶子 伊地知寛子

目的 小学生の体型を観察するために、シルエッター写真を用いて平面計測し、それぞれの外形にあらわれた左右差の傾向を、年令別・性別に比較検討した。

方法 被験者は、鹿児島市立丁小学校在学の健康な児童8才~12才までの男女合計400名について、昭和48年7月、シルエッターⅡ型による写真撮影を行ったが、今回はそのうち9才(男子49名、女子51名)・10才(男子48名、女子50名)・11才(男子47名、女子44名)・12才(男子45名、女子47名)の4年令、男女合計381名を研究対象とした。計測方法は、長径項目はノギス($\frac{1}{20}$ mm)を用い、角度は分度器により計測した。被験者の服装、写真撮影のしかた並びに研究項目は前報と同じである。

結果 1. 人体外形における肩部の形態は、左右差を示す個体が多く、今回計測の381名中、右=左(差の 0.5° 以下を=とみなす)のものは16.01%にとどまり、右>左すなわち右肩下りのものは54.33%を占め、残り29.66%のものは右<左を示し、左右差の出現率に著しい有意差($P<.001$)がみられる。左右差の最大量を示す例は、11才男子 14.0° (比右肩線傾斜角度= 35.90)である。

2. 脇胸囲点高では、男女各年令ともに右>左のものの出現率が高く、左右差の最大量を示す例は、9才女子の2.40cm(比右脇胸囲点高= 3.13)である。

3. 肩峰点・脇胸囲点間距離では、男女各年令ともに左右差の出現率に顕著な有意差(いずれも $P<.001$)がみられる。また左右差の最大量を示す例は、10才女子の2.75cm(比右肩峰点・脇胸囲点間距離= 11.93)で、個体の欠点として偏いが目立つ。